

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25175 若者と高齢者は対立するのか？—熟議を通して考えてみよう



開催日：平成25年7月20日(土)
実施機関：関西大学
(実施場所) (千里山キャンパス第一学舎)
実施代表者：大津留智恵子
(所属・職名) (法学部・教授)
受講生：35名
関連URL：<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~ckotsuru/kaken10.html>

【実施内容】

雇用をめぐる若者と高齢者の対立をテーマに、事前課題、講師の講演、グループでの議論をもとに、自分の考えがどのように形成され、変容するのかという過程を経験してもらうことを主眼とした。異なる立場の情報を活用しながら自らの立場を形成する熟議型民主主義という手法は、近い将来有権者となる高校生にとって有用なものであり、またテーマの雇用問題は家族や自分自身の問題としても関心が高かった。



応募者の35名の高校生は、事前に新聞記事と対話形式で設問がなされた課題について考えをまとめてきた。また、リーダーを務める学生・院生は講師を交えての事前準備を重ね、講演内容を参考にしながら、当日の議論の展開の重要な点についてのシミュレーションを行った。プログラムでは、高校生の自主的な発想を促すことに特に留意したため、発想の鍵となるような資料を準備したり、発想をリアルタイムで追うためのポストイットの有効活用などの工夫を行った。



当日は高校生を4-5人ごとに6つのグループに分け、リーダーの進行のもとに事前課題についての議論から始めた。議論を始める前に若者と高齢者の対立の原因について問うと、高齢者の行動に責任を求める意見がかなり出た。事前課題で示された二つの対立するアクターについて、グループ内で各自の意見とその根拠を表明していった。続いて、講師から雇用における世代間対立の背景に関する講演をうかがい、表面的には対立に見える若者と高齢者を異なる角度から考えてみる必要性が示唆された。講演で示された異なる視点を出発点として、午後の議論では政府や会社というアクターを加えた新たな議論が展開された。一見、雇用される側の若者と高齢者の対立のように見える構造が、それを取り巻く政治や雇用者の意図によっても作られており、小さな対立関係を越えた枠組みで議論をする必要が複数のグループで指摘されていった。

当日のスケジュールは以下の通りである。

- 11:05-11:15 受付、スタッフ紹介・プログラムの説明、科研費の説明、学部長挨拶
- 11:15-12:00 事前課題をめぐる第一次グループ討論
- 12:00-12:25 講師による専門的知見の提供 (1)
- 12:25-13:35 <昼食、休憩-キャンパス散策>
- 13:35-14:45 専門的知見をふまえての第二次グループ
- 14:45-15:05 各グループの見解を発表
- 15:05-15:25 講師による専門的知見の提供 (2)
- 15:25-15:35 熟議に関する解説
- 15:35-16:00 クッキータイムを取りながら意見交換
- 16:00-16:30 修了式(未来博士号授与、写真撮影、全体講評、アンケート記入)、解散



議論を総括する形で全体集会をおこない、グループ代表者が各グループの結論とそこに至った根拠を発表した。各グループの議論の成果を受けて、講師から後半の講演をしていただき、グループでの議論がさらに発展していくための視点を提供していただいた。最後に、本日のセミナーで体験してもらった熟議が、民主政治において持つ意味についての説明を加えた。その上で、クッキータイムを取ながら、グループごとに一日の議論についての振り返りの時間をもち、自分の考えが一日の議論を通してどのように変容したかを確認した。



長時間にわたって議論を交えた成果をたたえて参加者に未来博士号を授与し、全員での記念撮影を行ってセミナーを終了した。内容を振り返ってもらうためのアンケートを配布し、夏休み明けに回収する予定である。実施後に分担者・協力者で一日のセミナーを振り返り、高校生にとって経験の少ない雇用問題をより身近にするための資料の必要性、熟議を促すために事前課題をいっそう充実させる必要性などの課題が出された。これらに今後回収するアンケートの分析を加えて、次回以降のセミナーではより具体的な資料を事前に配布できるような体制づくりを行っていくことで、当日の議論を発展させていきたいと思う。

事務局とはプログラムの計画の段階から十分な意思疎通を行い、広報活動の事務作業では特に協力を得た。当日も多数の高校生の誘導を始めとし、全体的な配慮の面で事務局の助力を得た。広報活動は日本学術振興会のウェブ上のプログラム案内のほか、ポスターとチラシを印刷し、従来から関西大学に関心を持つ高校に送付して案内したり、大学との連携に関心の高い高校教員に情報を流すなどの手法を用いた。

当日は、特に熱中症の危険があったため、お茶を用意したり室温管理をするなどの安全配慮をおこなった。また、学内散策は学生・院生リーダーが引率して安全を確認した。

【実施分担者】

石橋章市朗 関西大学・法学部・准教授

【実施協力者】 6 名

【事務担当者】

政木 加壽沙・辻 美穂 研究支援グループ